

木更津へのオスプレイ配備開始に抗議する（談話）

2020年7月14日
安保破棄中央実行委員会
事務局長 東森英男

陸上自衛隊が米国から購入したオスプレイの木更津駐屯地への配備が10日に開始されました。

世界に知られた欠陥機をアメリカ言いなりに17機も購入して、住民の安全を脅かすことは許されません。配備の撤回を強く求めます。

オスプレイは、1991年から2000年までの開発試験段階に4回の重大事故で32人が死亡し、量産決定後の2007年からの2017年間に7回の重大事故で10人が死亡し、これまでに少なくとも42人の命を奪っています。

陸上自衛隊がオスプレイを導入する目的は、新編された日本版海兵隊といわれる水陸機動団を輸送するためのもので、米軍のアジア戦略の一翼を担う、日米軍事一体化の一環です。

防衛省は当初、水陸機動団の拠点に近い佐賀への配備をねらいましたが、配備予定地の漁民をはじめ、地元の反対でとん挫しています。

木更津への配備は5年間の「暫定」とされていますが、防衛省は5年以内について「目標」としており、確約ではありません。

木更津駐屯地にはすでにオスプレイ部隊である「輸送航空隊」が編成され、木更津配備後は関東一円で低空飛行を含む訓練を展開することを明らかにしています。東京の横田基地には米空軍特殊作戦部隊のCV22オスプレイが配備されており、沖縄・普天間基地のオスプレイの飛来、米軍横須賀基地へ配備予定のCMVオスプレイなどと合わせ、首都圏・関東住民の安全は重大な脅威にさらされます。

私たちは、オスプレイの木更津配備に反対しその撤回を求めるとともに、「日本のどこにもオスプレイはいらない」との立場で、全国が連帯してたたかうことを訴えます。

イージス・アショアの配備計画を断念させた世論と運動を発展させ、すべてのオスプレイの配備計画の撤回を実現しましょう。

以上